



Title	1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターに関する考察
Author(s)	中川, 可奈子
Citation	デザイン理論. 2013, 61, p. 124-125
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/53472">https://doi.org/10.18910/53472</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターに関する考察

中川可奈子／京都工芸繊維大学

### はじめに

1960年代にチェコスロヴァキアで制作された外国の映画ポスターと、その映画の製作国で制作された映画ポスターを比較すると、デザインに大きな違いが見られる。それは、共産主義国という社会体制だけでなく、ポスターを制作した作家の思想や姿勢がデザインに大きな影響を与えていると考える。そこで1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターに見られる作家性と表現についてデザインの観点から分析し、考察した。

### 1. 1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスター概要

1950年代初期のチェコスロヴァキアの映画ポスターは、独占映画配給会社の宣伝部に属する少数のデザイナーによって制作されており、プロパガンダの作品が多く生まれた。1950年代後半になると、配給会社の宣伝部が廃止され、新しく雇われた編集者が若い芸術家に映画ポスターを依頼するようになった。また国内で発行される印刷物を管理している承認委員会のメンバーに加わった芸術家が、芸術的な映画ポスターを制作するよう働きかけた結果、1968年のソ連による正常化が行われるまでの間に芸術性の高いポスターが多く制作された。チェコスロヴァキアの映画ポスターを制作したのは、画家だけでなく、建築家、彫刻家、タイポグラファー、イラストレーター、写真家、舞台芸術家など、あらゆるジャンルの芸術家だった。そこで、絵画やイラストレーションだけでなく、写真のコラージュや大胆なタイポグラフィなど、幅広い

表現手法が用いられ、それぞれの芸術活動において独自の表現を追求していた芸術家の個性が映画ポスターの中で発揮された。1960年代は、チェコスロヴァキアは共産主義体制下にあり、映画の配給権が行使されず、経済的な圧迫がなかった。またソ連による政治的な規制が緩和されてきており、検閲がほとんど機能しなかったことも社会的要因である。

### 2. 映画の内容とポスターの関係性

京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵しているチェコスロヴァキアの映画ポスターと映画の内容の関係性について調べ、さらに映画の製作国が作ったオリジナルの映画ポスターとを比較した。映画製作国のポスターは、映画に登場する俳優や重要な場面を切り取ってイラストレーションで仕上げているものが多いこと、関わった企業や人々を記載しなければならず、文字情報が多いこと、全体として、映画の情報をわかりやすく正確に伝達するものであるのに対し、チェコスロヴァキアの映画ポスターは、作家個人の解釈によって映画が表現されること、得意な手法を持った作家の個性が発揮されること、映画の雰囲気や正確に表現するものではないことがわかった。

### 3. 1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターのデザイン分析

1960年代チェコスロヴァキア映画ポスターのデザインがどのような技法で表現されていたか、主要な作家12名が1958年～1970年に制作した Terry Posters 所蔵の映画ポスター計

533点に対して、以下の分析を行った。

### 分析1《技法の割合》

1960年代チェコスロヴァキア映画ポスターを7種類の技法に分類した。その結果、1960年代チェコスロヴァキア映画ポスターの技法の割合は、「写真の加工（42%）」、「半抽象（32%）」、「コラージュ（27%）」、「タイポグラフィの表現（6%）」、「抽象（3%）」、「版画の表現（2%）」、「写実（2%）」であった。

### 分析2《コラージュ》

技法の割合を作家別に見ると、カレル・タイシク（Karel Teissig, 1925-2000）の「コラージュ」の技法の割合がチェコスロヴァキア映画ポスター全体におけるコラージュ技法の割合よりも高くなっていることがわかった。そこで、タイシクのコラージュを使ったポスター30枚を、「写真」、「絵」、「テクスチャ」を用いたコラージュ【単体型】と、「テクスチャと写真」、「テクスチャと絵」、「写真と絵とテクスチャ」、「写真と絵」、を用いたコラージュ【複合型】に分類し、年間のコラージュの種類と枚数をあらわすグラフを作成した。そのグラフから、【単体型】ポスターは1960年代初期に多く、素材の組み合わせを用いた【複合型】ポスターは1960年代半ばから割合が圧倒的に大きくなっていくことがわかった。これは、タイシクがコラージュの技法を習得してから、10年の間に独自の表現を深めていった結果であると言える。

### 分析3《表現》

「写真の加工」に分類されたポスター（183点）を、表現が【抽象的】か【具象的】に分類した。その結果、「写真の加工」の具象的な表現は53枚、「写真の加工」の抽象的な表現は129枚で、1対2の割合で「写真の

加工」のポスターは抽象的な表現が多い事がわかった。さらに1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスター全体において、抽象的な表現（「写真の加工（抽象的）」、「半抽象」「抽象」「版画」「コラージュ」「タイポグラフィ」の技法）と、具象的な表現（「写真の加工（具象的）」、「写実」の技法）に分類した。その結果、抽象的な表現が全体の89%を占め、具象的な表現が11%であった。

### 4. おわりに

1960年代のチェコスロヴァキア映画ポスターのデザインを分析すると、その90%が抽象的な表現であった。映画のポスターは特に映画自体に内容が存在するので、これらが抽象的な表現であれば、ポスターを見る側が創造力を働かせる必要がある。1960年代は、そのようなポスターが街中に溢れていたようだ。1960年代チェコスロヴァキアの映画ポスターは、「伝達」という機能性が弱い分、作家の個性や芸術性にポスターの完成度がゆだねられていた。残念ながら1989年以降は、チェコスロヴァキアにおいても他の資本主義国と同じようなポスターが制作されるようになり、1960年代に見られるような芸術的な作家性の強いポスターは少なくなった。1960年代は、チェコスロヴァキアのデザインを考察する上で重要な時代であり、引き続き研究を進めたい。